



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO.17 R5.12.01

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

一冊の詩集がもたらすもの -社会の分断に思う-

令和4年2月にロシアがウクライナへ侵攻してからもう1年9か月が過ぎました。戦争とはかくも泥沼に陥りやすく狂気^{あんたん}じみたものなのかと暗澹たる気持ちになります。

加えて現在は、パレスチナのイスラム組織ハマス^{たお}の攻撃で大きな被害を受けたイスラエルはガザ地区を攻撃しています。国際情勢は緊迫し、対立する片方を支持する動きがある反面、もう一方の側を支持する動きも活発になっています。その結果、世界各地で様々な抗議行動が起き、社会の分断が進んでいる状況です。

戦争にかかわって“狂気”といえ、大江健三郎の『われらの狂気を生き延びる道を教えよ』(1969年)のある次の一文を思い出します。

「様ざまな時代の様ざまな地方の戦争で、おごたらしくも^{たお}殞れた兵士の背囊^{はいのう}からしばしば詩集が発見されるという報告は何を意味しているだろうか。」

戦地で倒れた兵士のバックから一冊の詩集が見つかる…。

不謹慎な見解を許していただきたいのですが、私はこのことを「なんと切なく、同時になんと清らかなことではないか」と感じました。

「詩」には読み終えるということがありません。「詩」は永遠に開かれた状態にあります。何度読んでもいつ読んでも何かを語りかけてくれます。恐らく兵士たちは生死の境という過酷な状況に追い込まれる中であって魂の浄化^{ひたすら}を只管願っていたのではないのでしょうか。

かたや、戦争に比べればずいぶん甘い話ですが、私自身、高校時代、受験勉強に疲れた時に好きな詩人の詩集をめくり、また大学時代、部活の夏合宿へ向かうバックに詩集をしのばせ、心の平衡^{へいこう}を保っていたことを思い出しました。(私の場合は現実逃避でしょうか。)

夢が現実^{ひたすら}に打ち破られる季節。3年生にとっては勉強の成果がうまく出せずに焦りや不安と戦う日々なのかもしれません。しかしそれと戦うよりもそれをきちんと受け止めることのほうが人間として立派ならば、そちらの修養をしようではありませんか。

その時、座右におかれた一冊の詩集はきっとあなたを支えてくれることでしょう。

ちなみに、オーストリアの哲学者ヴィトゲンシュタインは第一次大戦のさなか、重すぎる、厚すぎるある本を背囊に詰め戦地へ赴いたといひます。その本は『カラマーゾフの兄弟』。一説によると彼はこの小説を最低50回読んだそうです。う〜ん、レベルが違うな。

冬空に満開 -武雄 de 花火開催-

11月18日(土)武雄 de 花火が開催されました。今年で2回目。打ち上げ場所は本校グラウンド。主催の武雄商工会議所の方は「ゆくゆくは他地区の花火大会に負けない名行事物にしたい」と語っておられました。

今年には本校および青陵中学校の生徒とその御家族の方々に入校して校舎前から観覧していただきました。寒い中でしたが100名以上の方が“特等席”から花火を楽しんでもらいました。



参観された方からは「とても間近から見る事ができてよかったです」「冬の花火もいいですね」と感想をいただきました。

このイベントには本校からも生徒会と写真部の有志の皆さんが動画撮影と写真撮影に協力してくれました。地域探究や主体性確立の一助になれば幸いです。

そして、これから何年もかけてぜひ皆さんの力でこのイベントを武雄を代表する取組として育てて欲しいと思っています。

生徒会長意欲を語る -TAKE OFF! 未来を切り開く!-

後期生徒会が本格始動しました。新会長の山本健斗さんに抱負を聞きました。山本さんは「高校時代という2度と戻ってこない貴重な時間に何もしないのはもったいない」と意欲を語ってくれました。



公約には「シエスタの検討と課外活動の広報」が掲げられています。「シエスタ」とは日照時間の長いスペインで生まれた習慣で長いお昼休憩のこと。必ずしも昼寝を意味するわけではありませんが忙しい武高生のリフレッシュにならないかという配慮がうかがえます。

また課外活動で頑張っている人が多い中、表彰だけではなかなか全校生徒に伝わらないので部活動や探究活動で活躍する人を積極的に紹介したいとのこと。学校の活性化がさらに進みそうです。

副会長の原田幹太さんも「社会に出たら主体性が大切です。自分で深掘りする学校文化が作れればと思います」と新しいことにチャレンジする意欲をのぞかせてくれました。

たくさんの大人とのかかわりの中で大きな達成感 -朝日町に貢献-

10月28日(土)、木島拓都さん、松下煌さんら3名(いずれも2年)は「朝日町健康・防災・スポーツフェスタ」に参画しました。



企画会議の段階から意欲的に参加し、自治体・地元飲食店・図書館・公民館の方々の中に高校生が混じり独自の視点で「eスポーツ体験会」を提案。見事採用され、当日はオープンと同時に小学生を始め大人の方まで入れ代わり立ち代わりお越しになり、大盛況でした。

高校生というだけでブランドです。こうしたまちづくりのイベントには積極的にかかわり、大人たちとの交流を経験してみてください。必ずや高い達成感と自己存在感が味わえます。そしてそのことが次の学びの原動力となるはずです!

二人は「今、また新たな意欲とアイデアが生まれてきつつあります。とてもいい経験でした」と感想を語ってくれました。

“深掘れ!武高生!”

【当面の主な予定(12月前半)】

2日(土) 土セミ(1・3年)

4日(月) 月セミ(1・2年)

5日(火) クラスマッチ(1・2年)

12日(火) 修学旅行(2年、15日まで)

(閑人閑話)師走。大学入試も佳境を迎える▼3年生は秋以降の模試ラッシュ、そして直前まで続く演習に次ぐ演習。毎日をごなすのが大変だろうがここが踏ん張りどころ。エラーを一つずつぶすしかない▼この時期、イライラはつきもの。受験は時に人を横柄にしてしまう。ひたむきな努力が反抗的な態度として表れ、人間関係がギクシャクしてしまうようでは受験勉強と引き換えに犠牲を払うことになりかねない▼君も美しい、僕も美しい/僕も美しい、君も美しい/美しいものだらけの世界/山と山が讃嘆しあうように/星と星が讃嘆しあうように/人間と人間が讃嘆しあいたいものだ(「君も僕も美しい」武者小路実篤)▼おらかな気持ちでこの4ヶ月を乗り切ってほしい。最後に笑う者が最もよく笑う。(昌)